

令和元年度第2回山内図書館利用者フォーラム 会議録

1. 日 時 令和2年2月5日(水) 10:00~11:30
2. 場 所 山内図書館 やまちゃんおはなしの部屋
3. 出席者 利用者フォーラムメンバー
貞廣代表、宮澤副代表、横溝委員(欠席)、岡田委員(欠席)、塚越委員、松下委員、宮崎委員(欠席)、坪内委員(欠席)、徳榊委員、西川委員、加藤委員

事務局

釜田(有隣堂本部)

古川館長、味元(山内図書館)

小島(三洋装備 欠席)、村田(三洋装備)

4. 案 件

- (1) 指定管理運営第2期の振り返り
- (2) 指定管理運営第3期のコンセプト
- (3) 自由討議

5. 概要

- (1) 指定管理運営第2期の振り返り(古川館長)

本年度で指定管理運営第2期が終了することから、第2期(平成27年度~令和元年度)に取り組んだことを報告。

① 環境整備

指定管理というとカフェを併設するなどの環境整備を行うことが多い。山内図書館の場合、既存の建物を維持しながら、リニューアルしていくため制約も多い。その中でできることに取り組み、ウッドデッキの設置、座席予約システムの導入、パソコン利用席の増設、パーティー付きの調べもの席の設置、新聞・雑誌架の椅子の増席、集会室のリニューアル(名称も「集会室」から、「やまちゃんおはなしの部屋」に変更する)を行った。

② 読書バリアフリーへの取組

障がい者の方が利用しやすいように館内の改修や整備を行う。多目的トイレのドアの改善、車いすの購入、線路側入り口の階段に手すりを設置、令和元年度に新コーナー「りん

ごの棚」を設ける。リンゴの棚には、障がい者向けの本や障がい者を理解するための本をそろえる。第 3 期は「りんごの棚」を積極的に活用してもらえよう区内の障がい者施設との連携を考えている。

③ 自主企画事業

・開館 40 周年事業として、山内図書館マスコットキャラクター・やまちゃんのお誕生日会（おはなし会＋本の福袋を用意し、おすすめ本を貸出）を企画したほか、あざみ野ブックカフェ拡大版＝「私たちの 40 年」と題し、井上ゆり氏（料理研究家・井上ひさし氏夫人）と小島潔氏（岩波書店編集者）による対談を行う。その他、有隣堂出版部と連携、有隣新書『大山詣り』の著者・川島敏郎氏による講演会、職員・スタッフ・地域の人たちによるおすすめの本「わたしの 1 冊」の紹介展示、エッセイスト岸本葉子氏の講演会を行う。

・書店のノウハウをいかした事業

作家・文化人の講演会、林望氏、村上龍氏、岸本洋子氏の講演会を開催したほか、ビブリオバトルの普及に努める。また、読書のコツや楽しみを記した 27 のキーワードもとに参加者全員で読書に関するディスカッションを楽しむ **Life with Reading** の活用を行う。

④ 学校連携事業

学校や学校図書館の司書を対象に、大きく分けて次の 3 つの支援を行う。

- ・要望に応える支援＝学校訪問を行い図書ボランティアの支援に取り組んだほか、読み聞かせや修理講座を開催。また、交流の場の創出としてボランティア交流会を開く。
- ・来館型の支援＝図書館見学、まち探検、職業体験、インターンシップ、実習、ボランティア体験など、小学生から大学生までを受け入れる。
- ・選書の支援＝選書に役立つ本の展示をやまちゃんおはなしの部屋で行う。

⑤ 地域、ボランティアとの協同

- ・郷土芸能を紹介する講座の継続＝新石川に伝わる「牛込の獅子舞」の講座を行う。やまちゃんおはなしの部屋で「牛込の獅子舞」のレクチャーを受けたあと、実際に見学する。
- ・夏のおはなし祭り＝8月に2日間にわたって開催。地域のおはなしボランティアの方がやまちゃんおはなしの部屋を会場に次々とお話を披露する。毎年11月には、山内地区センターで「おはなしフェスティバル」が開かれ、やはり地域のボランティアの人が一堂に会してお話会を開いている。20年続いており、山内図書館は共催としてこの事業を支援している。

⑥ 図書取次サービス

区内 7 か所の地区センター等で予約本が受け取れ、返却できるサービス。山内図書館は予約本の状態を確認したあと、地区センターへの配送を行う。

⑦ 有料宅配サービス

青葉区在住でこのサービスに登録している方を対象に、予約本を自宅へ郵送するサービス。高齢者を主な対象に想定し始めたサービスであるが、予想に反して子育て世代の利用が伸びている。

⑧ 託児サービス（有料）

月 2 回開催。図書館利用時に未就学児を預かり、保護者の方に読書に親しむ時間を提供している。アンケートで感想をきくと、「リフレッシュできた」「じぶんのために時間を使えてうれしい」などの声が寄せられた。

⑨ キャラクターを活用した広報

山内図書館マスコットキャラクター・やまちゃんを活用。イメージキャラクターとしてポスター等に使用するほか、ホームページでブログを担当。山内図書館の行事のお知らせや、読書に関する情報をソフトに発信している。

⑩ 広報媒体の使い分け

ホームページやブログ、ツイッターなど、媒体を使い分け、対象とする人に図書館情報が届くよう幅広く広報を行う。SNS についてはもう少し工夫が必要と考えている。

（2）指定管理運営第 3 期のコンセプト（古川館長）

令和元年 12 月に横浜市議会の承認を受け、引き続き有隣堂グループが山内図書館を管理運営することになった。第 3 期は地域とともに発展する図書館と位置づけ、『「地域」の力を「地域」に還元！ 山内図書館は青葉区民のプラットフォーム』をコンセプトに、より地域に密着し、また図書館を拠点に仲間づくりをはかり、地域を盛り立てるために図書館に集う人の力をいかすことを目指す。第 3 期のサービスのありかたとして次のようなことを考えている。

■第 3 期のサービスのあり方

1. 地域連携の牽引

2. アウトリーチサービス

区内に一つしか図書館がないこともあり、地域に出かけて行くことも重要であり、第 3 期は地域へ出張サービスを行っていきたいと考えている。

3. 司書の顔が見える図書館

4. サードプレイスとしての居場所づくり

シニア世代をはじめ、女性、若い世代の居場所となるようにしていきたい。「大人の倶楽部活動」を立ち上げ、地域に暮らす人が図書館に集い、楽しみながら、趣味や専門知識を生かした活動を行ってほしいと考えている。

5. デジタルサイネージ（電子掲示板）の活用

電子式の掲示板を使って、図書館情報（休館日のお知らせやイベントの告知）を広報するほか、郷土資料（青葉区内のお祭りや伝統芸能を撮影したビデオなど）を公開していくことを考えている。

6. 人口知能（AI）搭載のロボットの活用

山内図書館へ来る楽しみの一つとなるよう AI ロボットの導入を考えている。AI ロボ

ットを使って、館内案内やおすすめの本の紹介をしていくことを考えている。

(3) 自由討議

・老人ホームでアルバイトをしており、図書コーナーを担当している。ホームには足腰が悪く、図書館には行けないが、本を読みたいと思っている人がいる。どんな本を読みたいかアンケートをとったところ、若いころに夢中になって読んだ作家の本を読みたい。大きな活字の本を読みたいと思っている人が多くいた。そういう方に向けて、何かできないだろうか。団体貸出に登録しているが、施設の図書コーナー、選書や展示方法について、図書館からアドバイスをもらえないだろうか。

→選書や展示についての相談に乗ることはできる。また、シルバー世代に向けて、大活字本やシルバー向けの紙芝居などのブックリストをつくってもよいかもしれない。

・有料宅配の説明があったが、高齢者施設でも利用できるのか。

→有料宅配は個人向けのサービスなので、団体（施設）のご利用はいただけないが、高齢者施設の利用者が個人で市立図書館のカードを作成し、宅配サービス（青葉区在住者のみ）にお申込みいただければ利用できる。

・有料宅配と選書のサービスを組み合わせて、図書館に来られないシルバー世代向けのサービスができないものだろうか。

→昭和のベストセラーとか、カテゴリー別に選書したシルバー世代向けのリストをつくるなどもよいかもしれない。

・大活字本は不朽の名作といった作品が多いが、現代作家のものはないのか。

→タイトル数は少ないが、現代の人気作家の本も出版されているので、出版されたときは購入している。しかし、そういう本は予約も多くなってしまい、書架になかなか並ばない。

・大活字本は現代の作家の新刊本として発行されることはないので、書店に並ぶことはまれである。本を読みやすくするものとして、リーディンググラス（拡大鏡）などのシニアグラスを扱っている。

・図書館でもそういうものを用意したほうがよいのではないか。

→老眼鏡とリーディンググラスは、館内でお使いいただくよう用意しているものがある。

・現役世代だと本を読みたい気持ちはあるが、探す時間がない。図書館へ行っても、普段使いなれていないせいか、自分の読みたい本がどこにあるかわからずとまどう。例えば3冊借りた作家の本などは新作が出たら自動的にメールで案内があると、もっと利用頻度

が多くなるかもしれない。

→インターネットの広告のようにはいかないが、横浜市立図書館には新着メールというサービスがある。好きな作家や興味あるジャンル（分類）を事前に登録しておく、図書館で新たにそれらの本を受け入れた場合メールでお知らせするサービスを行っている。

- ・先日、テレビでユニークな本屋さんが紹介されていた。利用料が 1500 円かかるが、館内で飲食もでき、販売もしている 3 万冊の本を読むことができる。何より本の展示方法が興味深かった。あるテーマの本を書架に何冊かまとめて、表紙を並べているコーナーがあり、とても目を引いた。時間がない人も、こういう方法なら興味が喚起され、より手軽に読書を楽しめるのではないだろうか。

- ・渋谷のツタヤ書店の本の分け方がユニーク。作家、出版社別ではなく、テーマ別に分けていた。猫だと猫の本ばかりそろっていたり、登山の本ばかりならんでいたり、本の集め方、並べ方が面白かった。図書館でも、こだわった趣味の本を並べるなどの展示を行ってもよいかもしれない。

- ・大人の倶楽部活動が立ち上がったなら、メンバーに展示を任せてみるとユニークな展示ができるかもしれない。

- ・新聞や週刊誌の読書欄や書評にでていた本を読みたいと思うが、メモを取り忘れてしまうことも多い。直近の記事をクリッピングしてもらえるとうれしい。

- ・おすすめの本を紹介する際、書店員の POP は目を引くので参考にしてみてもよいのではないだろうか。

- ・大人の倶楽部活動で朗読をやってみてはどうだろうか。高齢者に新刊の本を読んであげられるのではないだろうか。高齢者世代は、CD やユーチューブなどは、使えない人も多いので、できればカセットテープに吹き込んで、貸し出すのもよいかもしれない。

- ・聞いたところによると、今、対面朗読でニーズがあるのは、その週に出た新聞とか週刊誌だそうだが、そういうものを読んであげるのもよいかもしれない。

→一対一で読むには著作権は問題にならないので、そういう朗読サービスもできるかもしれない。また、著作権がクリアできるものは、カセットテープなどに吹き込むことも可能かもしれない。

- ・録音が得意な人と読むのが得意な人が組めば、大人の倶楽部活動でそういうことができるのではないだろうか。

- ・現在、私が属している朗読ボランティアでは毎月、老人ホームを訪れ、朗読会を行っている。

- ・大人の倶楽部活動の説明の中に、園芸部の話が出ていたが、もう立ち上がっているのか。
→来期に園芸クラブを立ち上げ、図書館前庭の花壇をイングリッシュガーデン風に仕立てたいと考えている。そのメンテナンスを園芸倶楽部に助けてもらえたらと考えている。

- ・装飾とか散策とか、修理が大人の倶楽部活動の例に挙がっていたが、どのようなことを考えているのか。

- 街歩きのグループなども面白いのではないかと考えている。図書館の郷土資料を使って、調べた上で、区内の史跡散歩するのは楽しいのではないだろうか。

- ・歴史探偵ファンクラブというのをつくって、バスや電車を使って目的地まで行って、散策している。現在、義経伝説散歩をやっているが面白い。歴史に関心が高い人は多いので喜ばれるだろう。

- ・パン屋めぐりというのもよいかもしれない。

- ・歴史散歩に農家さんや直売所などを組み合わせて、青葉区を歩いてみるのも面白いかもしれない。

- ・食べるものがからむと、多くの人の関心を得られると思う。青葉区が行っている青葉ブランドの店を街歩きのコースの中に入れてもよいかもしれない。

- 現在、山内図書館では2つのグループに活動いただいているが、さらに活動を拡大していきたいと考えている。本を縫ったりすることもあるので、手先の器用な人には興味深いのではないかな。

- ・現在は、2つのグループがそれぞれ月2回、やまちゃんおはなしの部屋で活動を行っている。メンバーは一期生が9名、2期生が15~16人程度、活動している。基本的には、山内図書館の本の修理を行っているが、年に一度、11月に「本の病院」を開き、一般の人の本の修理を行っている。思い入れの深い本を持参する人が多いので緊張する。今年の依頼者の中には聖書を持ってきた人がいた。ばらばらになっていたが、お母様が大切にしていたものなので、直して欲しいとのことだった。修理に2か月近く、かかった。お母さんが読んでいた絵本を子どもに読ませたいので直して欲しいという人もいた。修理後のアンケートには、大切な本を直してもらってうれしいという声が多く、それが励みになっている。

- ・まずは、本を壊さないキャンペーンを行ってはどうか。本を大切に扱ってもらい、万が一、汚したり、壊したりしたときは、申告してもらえると、汚れたり、壊れた本の数が減らないだろうか。

- ・デジタルサイネージには広告を入れる予定なのか。もし、広告を入れられるなら、広告料で団体貸出の本を購入したりはできないのか。

→広告は考えていなかった。広告を入れられるかは確認を試みる。

- ・アウトリーチサービスはどんなことを考えているのか。取次の場所が増えることはあるのか？

→取次の場所を増やすのではなく、取次先で講座をすとか、出張登録するとかを今のところ考えている。

- ・司書の顔が見える図書館とはどういうことを考えているのか。

→定年退職してしまったが、おはなしのおじさんといったタイプの職員がいて、その人のおはなし会を楽しみに通う子どもたちもいた。この人のように、「あの人に会い」に、「あの人の話を聞きに図書館行こう」と思えるような、そういったところが生まれてくるとよいと考えている。

- ・地域の銀行と連携して、老後の資産とか遺言の書き方の講座など、連携してもよいのではないか。

配布資料：会議次第